

農業振興課

1 農政関係

本市農業は、都市化の影響を受けて通勤兼業地帯となっている。また、そのほとんどが水稲単作地域で米、特に酒造好適米「山田錦」が基幹作物となり、一部農家において野菜・花き・果樹・酪農との複合経営が行われている。このような状況の下で、効率的かつ安定的な経営体の育成や、兼業農家主体の集落営農による低コスト農業の支援に取り組んでいる。

令和6年度における各種事業実施状況は、次のとおりである。

(1) 地域農政の推進

ア 農政活動事業

各集落の農会長に対し農業経営の改善、営農計画等について協力を得るために、農政活動事業を委託した。

委託料：2,700,000円

地 区	集落数（地区）	農会長数（人）
三 木	5	5
久留美	11	11
別 所	13	13
志 染	14	14
口吉川	15	15
細 川	22	22
吉 川	38	38
計	118	118

イ 三木市農業者研修会

開 催 日：令和7年3月19日（水）

場 所：三木市立教育センター（4階）大研修室

参 加 者：市内農業者、関係者等 参 加 者 67人

演 題：「集落の農業は、みんなで守る」― 殿畑営農組合 30年の歩み ―

講 師：殿畑営農組合 組合長 山崎 広治

(2) 水田農業対策

ア 水田活用推進補助事業の実施

水田を活用し重点振興作物や黒大豆等を生産したのに対し水田活用推進補助金11,628,000円を交付し水田のフル活用の促進を図った。

イ 経営所得安定対策

地域協議会推進活動経費として、3,761,760円を交付した。

ウ 水田農業推進事業

水田農業を円滑に推進するため、三木市農業活性化協議会が実施する事業に対し助成を行った。

事業主体：三木市農業活性化協議会

事業費：600,000円

事業内容：ジャンボタニシ発生対策事業、大豆栽培技術確立立証事業 他

(3) 農福連携事業

農業の新たな担い手を確保するとともに、障がいのある方の働く場を確保するため、農業者が市内の障害福祉サービス事業所などへ農作業を委託する場合の費用の一部を補助した。

件 数：8件（申請8件、6名）

事業費：160,000円

三木市農福連携について考える勉強会

開 催 日：令和 7 年 2 月 17 日（月）
場 所：三木市役所（5 階）大会議室
参 加 者：農業関係者、障害福祉サービス事業所等 15 名
オブザーバー：神戸学院大学現代社会学部現代社会学科 講師 菊川 裕幸
農福連携アドバイザー 長谷川 いづみ
三木市人権・同和教育協議会 人権教育・啓発専門員 大東 太郎
講 演：「障害のある人の人権」～共に生きることのよろこび～
三木市人権・同和教育協議会 人権教育・啓発専門員 大東 太郎
報 告：令和 6 年度三木市農福連携事業の成果と課題
農業者・障害福祉サービス事業所等

(4) 農産物の消費拡大

ア 農業祭

本市農業の PR と地元農産物の消費の拡大を図り、地域農業の実態を広く市民等に理解してもらうとともに生産者と消費者との交流を進めるため、農業祭を開催した。

かじやの里メッセみきにおいては、山田錦振興プロジェクトとして、酒造好適米「山田錦」に関する公開座談会、酒蔵による日本酒の試飲・販売を実施した。

開 催 日：令和 6 年 11 月 2 日（土）・3 日（日）

会 場：三木山総合公園、かじやの里メッセみき

行事内容：野菜市、日本酒販売、農産物市場、公開座談会、展示等

事 業 費：5,160,000 円

イ 山田錦まつり

山田錦生産農家と関係酒造会社が一体となり、伝統ある村米制度に支えられた蔵元が醸し出す日本酒の魅力と、その配米を供給する三木市吉川町の山田錦文化を広く PR することにより、地域振興と農家の生産意欲向上、日本酒の消費拡大を図るため、今年度で 30 回目となる「山田錦まつり」を開催した。

開 催 日：令和 7 年 3 月 8 日（土）・9 日（日）

会 場：山田錦の館、吉川温泉よかたん駐車場

行事内容：高級酒の試飲、販売、餅まき、日本酒トークショー、記念杯グラス販売、人抽選会、酒造メーカーPR コーナー、ミニライブ、和太鼓等ステージイベント等

補 助 金：3,850,000 円

ウ 二十歳の山田錦物語

酒造好適米「山田錦」の生産者と新成人を迎える大学生が交流や情報交換を行い、日本酒の消費拡大や生産者の意欲向上を図った。

負 担 金：200,000 円

エ 酒造好適米「山田錦」ブランド化事業

国内の日本酒消費低迷による山田錦の需要減少に対し、海外での知名度向上とブランド力強化を図るため、三木市産山田錦を使用した日本酒を海外の日本酒品評会に出品する際の出品料の一部を助成した。

・海外日本酒品評会出品補助 補助金：160,000 円 出品 4 社 8 銘柄

オ 三木市山田錦振興プロジェクト 2024「山田錦生産者の集い」

開 催 日：令和 6 年 7 月 13 日（土） 13 時 30 分から 16 時 30 分

場 所：三木市立教育センター（4 階）大研修室

参 加 者：農業者等 63 名

報 告：「気候風土を活かした酒米『山田錦』生産システム」

北播磨県民局 加東農林振興事務所 副所長 佐藤 慎介

講 演：「山田錦を知り、山田錦を栽培する」

山田錦の語り部 山崎 広治

講 演：「兵庫県産『山田錦』の現状と温暖化による影響」

県立農林水産総合技術センター 研究員 池上 勝

- カ 三木・別所地区 山田錦生産者の集い
 開催日：令和6年9月2日（月）19時から20時30分
 場所：三木市立別所町公民館 視聴覚室
 参加者：別所地区農業者等19名
 講演：「別所産山田錦と永井酒造・浅間酒造との30年の歩み」
 三木・別所地区 山田錦部会 顧問 河原 昭弘
- キ 吉川地区 山田錦生産者の集い
 開催日：令和6年9月4日（水）
 場所：JAみのり吉川営農経済センター
 参加者：吉川地区農業者等23名
 講演：「吉川町産山田錦の生産と流通」
 山田錦の語り部 矢野 義昭
- ク JA兵庫みらい管内 山田錦生産者の集い
 開催日：令和6年9月20日（金）19時から20時30分
 場所：JA兵庫みらい営農生活センター会議室
 参加者：JA兵庫みらい管内農業者等31名
 講演：「酒米と物流」
 山田錦の語り部 鷺尾 信彦
- ケ 三木市山田錦振興プロジェクト2024
 開催日：令和6年11月2日（土）10時30分から14時30分
 場所：かじやの里メッセみき
 講演：「伝統を未来へ紡ぐ山田錦の農業遺産」
 兵庫県山田錦主産地農業遺産推進協議会事務局 佐藤 慎介
 座談会：酒蔵と山田錦生産者の公開座談会
 コーディネーター
 吉備国際大学 農学部地域創成農学科教授 松原 茂仁
 パネリスト
 灘五郷酒造組合 原料対策委員長 西向 賞雄
 稲見酒造(株) 代表取締役 稲見 秀穂
 山田錦の語り部 矢野 義昭
 山田錦の語り部 鷺尾 信彦
 山田錦生産者 藪西 史丈
 山田錦生産者 白木 拓真
 兵庫県山田錦主産地農業遺産推進協議会 事務局 佐藤 慎介

(5) 産米改善事業

米の需給事情と三木市の立地条件を勘案し、酒造好適米「山田錦」の栽培技術改善による安定生産、品質改善及び生産振興に取り組んだ。

ア 栽培技術の改善

栽培技術の向上と栽培法の単一化を図るため、山田錦のモデルほ場を市内19か所に設置して生育調査や肥料試験を実施した。

委託料：300,000円

イ 山田錦の生産振興

栽培技術の改善による品質向上と酒造好適米「山田錦」の声価をよりいっそう高めるため、美囊地区酒米協会・三木酒米振興会とともに安定確保を目標に掲げて酒米生産団地の振興に取り組んだ。

ウ 農業生産の合理化

水稲良苗の大量供給を行い、農業生産の合理化に資するため、市内の農協が設置した育苗センターの運営指導に努めた。

エ 地力増進事業

市内の農協が実施する堆きゅう肥の供給及び散布を利用した農家に対し助成金を交付し、環境保全型農業の振興と地力増進を図った。

助 成 金：3,957,260 円

(6) ジャンボタニシ対策

生息域の拡大防止と生息数の減少を目指して、水稻被害軽減のための防除についての講習会を開催し、その生態や防除手法などの周知を図った。

開催日時：令和 7 年 2 月 17 日（月）16 時から 17 時

開催場所：三木市役所(5 階)大会議室

演 題：ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）による水稻被害軽減のための防除

講 師：加西農業改良普及センター 高原 漠

(7) 農業団体の育成

農業経営の改善、主要作物等の品質と生産性の向上を図るため、各種農業関係団体に対して補助金等を交付し、その育成指導に努めた。

団 体 名	補助金・分担金・負担金
加西農業改良普及事業協議会	100,000 円
美囊地区酒米協会	270,000 円
三木酒米振興会	230,000 円
三木市農地開発連絡協議会	162,000 円
兵庫県地域振興対策協議会	5,000 円
兵庫酒米特別地域振興会	50,000 円
三木・吉川地区農作物改良協会	10,000 円
三木市園芸組合	90,000 円
兵庫県丹波黒振興協議会	20,000 円
三木吉川つたの会	27,508 円
三木市酪農振興部会	0 円
JA 部会（吉川ぶどう研究会、山田錦村米部会）	700,000 円
営農組織協議会（三木みらい営農組織協議会、吉川営農組織協議会）	0 円

(8) 園芸作物・果樹の品質と生産性の向上

園芸作物・果樹の品質と生産性の向上及び産地の形成を図るとともに、関係団体と連絡調整を図り、消費拡大に努めた。

ア 野菜の生産振興

野菜の生産振興を図るため、県認証食品（ひょうご安心ブランド、ひょうご推奨ブランド）、県指定産地の指定等を受けて生産団地の育成に努めた。

(ア) ひょうご安心ブランド農産物：黒大豆枝豆（実楽営農組合）

(イ) ひょうご推奨ブランド：山田錦みそ、黄金みそ（（株）吉川まちづくり公社）、レモングラス、パセリ、バジル（（株）みきヴェルデ）、いちご（三木市いちご研究会）、ぶどう（南畑農業生産組合、個人）、うるち米（個人）

(ウ) 県指定産地：トマト、ナス（JA 兵庫みらい）

(エ) 市振興作物：黒大豆、いちご、志染ナス、別所玉ねぎ

イ 果樹の生産振興

ぶどうの産地形成と品質の向上を図るため、「第 58 回三木市ぶどう品評会」を開催した。

開催日：令和 6 年 9 月 6 日（金）

会 場：三木市役所みつきいホール

(9) 農業振興地域整備計画の管理

「三木農業振興地域整備計画」の変更状況（令和 7 年 3 月末現在）

（単位：ha）

		田	畑	樹園地	採草放牧地	その他	合計
農業振興地域		3,344.2	281.1	171.4	0.8	2,470.1	6,267.6
農用地 区域	R5 年度末	2,862.9	235.8	156.6	0.8	107.2	3,363.3
	R6 年度末	2,864.9	235.1	156.6	0.8	107.2	3,364.6
	増 減	2.0	△0.7	0	0	0	1.3

(10) 農業制度資金

農業者が資本装備の高度化と農業経営の近代化を図るため、農舎や農機具を購入しようと農業協同組合等の金融機関で融資を受けた場合に、利子補給を行った。

融 資 機 関	件数	利子補給額 (円)
日本政策金融公庫	14	2,142,551
兵庫みらい農業協同組合	0	0
みのり農業協同組合	1	4,873
計	15	2,147,424

(11) 構造政策の推進

農業者の創意と自主性の高揚と地域農業の振興を図るとともに、農用地等の確保及び有効利用と、農業経営基盤強化促進法による集積計画に基づく利用権設定による農地の集積を行った。

(12) 集落営農の推進

地域の実情に即した営農組織経営体の設立・育成を目的とし、地域農業の中心として営農組織を検討している集落を対象に研修会を開催した。

開催日：令和6年12月7日（土） 1地区

内 容：集落営農の概要について

(13) 認定農業者への支援

施設整備、機械導入等を行う認定農業者に対し、取得費用の一部(20%)の補助を行った。

認定農業者：17 経営体

補 助 金：6,635,000 円

(14) 新規就農者への支援

次世代を担う農業者となることを目指し、目標地図又は人・農地プランに位置付けられている、若しくは農地中間管理機構から農地を借り受けている独立・自営就農する認定新規就農者に資金を交付し支援を行った。

ア 経営開始時の早期の経営確立を支援する資金

給付対象者：11 世帯 12 人（10 人と 1 夫婦）

給 付 金 額：経営開始型 8,400,000 円

経営開始資金 7,500,000 円

イ 就農後の経営発展のために機械・施設等の導入を支援する資金

給付対象者：2 件

給 付 金 額：経営発展支援事業 6,705,750 円

(15) 新規就農者の確保

ア 新規就農希望者相談会の開催

新たに農業を始めようと考えている方からの相談に対し、毎月第2水曜日に定期的に専門機関の職員を交えて面談を行い、指導や助言を行った。

相談件数：23 件

イ ひょうごで就農

ひょうご就農支援センター等が主催する就農相談イベント「ひょうごで就農」に出展し、三木市での就農相談や市の PR を行った。

日 時：令和 6 年 6 月 22 日（土） 10 時から 16 時

場 所：神戸国際会館 9 階フロア

相談件数：13 件

ウ 新・農業人フェア

民間企業が主催する就農相談イベント「新・農業人フェア」に出展し、三木市での就農相談や市の PR を行った。

日 時：令和 6 年 10 月 27 日（日） 10 時から 16 時

場 所：グランキューブ大阪 イベントホール

相談件数：13 件

(16) 農業者団体等への支援

共同施設、共同機械等の導入を行う農業者団体等に対して、取得費用の一部（20％）の補助を行った。

給付対象者：11 団体

給付金額：7,828,000 円

(17) 農地利用効率化等支援交付金

農業者の減少や耕作放棄地の拡大が加速することが懸念されるなか、地域において目指すべき将来の農地集約化等に重点を置いた農地利用の姿を策定し、その実現に向けて経営改善に取り組む経営体に対し、必要な農業用機械等の導入を支援するために経費の一部を補助した。

件 数：2 件

導入機械：コンバイン・ラジコン草刈機、ドローン・ラジコン草刈機

事業費：4,091,000 円

(18) 集落営農活性化プロジェクト促進事業

集落営農組織は、生産・販売活動の共同化等により地域の農地の持続的な利用に貢献してきたが、構成員の高齢化や減少が進み、今後、組織の弱体化が懸念されている。

このため、集落営農組織が、様々な経営課題を乗り越え、将来にわたって持続的に発展することができるよう、地域の関係機関のサポートを受けながら、高収益作物の試験栽培・販路開拓、共同利用機械等の導入を支援するために経費の一部を補助した。

件 数：1 件

導入機械：ラジコン草刈機

事業費：1,572,000 円

(19) 農業法人活性化支援事業

今後の農業の担い手となる農業法人の経営の活性化を支援するため、経営規模の拡大や高度化に必要な農業機械の導入経費や、法人運営に必要な経営、労務管理、販売管理等の知見を有する人材雇用を支援するために経費の一部を補助した。

件 数：1 件

導入機械：コンバイン

事業費：2,727,000 円

(20) 地域計画策定事業

令和 5 年 4 月 1 日に改正された農業経営基盤強化促進法が施行され、従来の「人・農地プラン」が「地域計画」として法定化された。地域計画では、これまで“守ってきた”農地のうち、将来にわたって“守るべき”農地を確実に利用し、次の世代に引き継いでいくため、「将来、地域の農地を誰が利用し、守っていくのか」などを決めるため、各農業集落で協議の場を開催した。

令和 7 年 3 月末までの 2 年間で 103 集落において地域計画を策定した。

(21) 観光農業振興事業

ア 三木市民農園運営協議会

志染町細目地内に市民農園を開園している三木市民農園運営協議会の事務局を担い、市民農園の運営・管理を実施した。

(22) 地産地消推進事業

安全で安心な農作物を地元で消費する地産地消の取組として、直売施設やハウス施設などの整備補助及び直売所出荷団体等への支援を行い、各直売所の充実を支援するとともに、学校給食への食材供給に係る事務の委託を進め食材の安定供給に努めた。

補助金： 35,000 円

委託料： 900,000 円

繰出金： 3,386,261 円

(23) 中山間地域等直接支払制度

川の上流に位置し、水源の涵養や洪水の防止等の機能を有する中山間地域のうち、特に農業生産条件が不利な地域において、引き続き農業生産活動を行い、農地を守るために農業生産活動を続ける集落に対し支援を行い、活力ある農村づくりを目指した。

また、13 集落において、農用地を維持・管理していくための取り決め（協定）を締結し、対象農地約 84.6 ヘクタールを集落ぐるみで守る活動を促進した。

交付金： 17,776,458 円

(24) 三木市農業振興審議会

令和 6 年度は開催なし。

(25) 三木市農業関係機関定例会（プロジェクト Y）

市、加東農林振興事務所（県民局）、加西農業改良普及センター（県民局）、JA 兵庫みらい三木営農生活センター、JA みのり三木営農経済センター・吉川営農経済センターの農業関係機関と定期的に意見交換を行った。

第 1 回 令和 6 年 4 月 17 日（水）

第 2 回 令和 6 年 6 月 27 日（木）

第 3 回 令和 6 年 8 月 27 日（火）

第 4 回 令和 6 年 11 月 22 日（金）

第 5 回 令和 7 年 2 月 17 日（月）

2 林業・緑化関係

森林法及び地域森林計画に基づいた森林資源の保護、活用と緑化活動を推進した。

(1) 緑の少年団の育成

平成 5 年 2 月に結成した三木市緑の少年団（現在、特別支援学校を含む市内 14 小学校で組織）に対し、関係者等の協力を得て育成指導を行った。

補助金： 558,700 円

事業： 校内緑化活動、花いっぱい運動の推進、森林学習講座の実施

(2) 伐採届出書等の処理

地域森林計画の対象森林となっている民有林において、1 ヘクタール未満の面積で立木の伐採を行うための伐採届出書を受け付け、県加東農林振興事務所とともに指導監督した。

件数： 16 件

面積： 39.51 ヘクタール

(3) 危険木伐採事業

市内の森林に存する危険木の倒木被害を防止することを目的に、危険木の伐採、撤去及び処分

を行う者に対し補助金を交付した。

件 数：3 件

補 助 金：781,000 円

(4) みなぎ台残置森林の管理

ア 草刈管理業務委託

残置森林法面の雑草を草刈機により刈倒し、搬出、処分を行った。

委 託 先：公益社団法人 三木市シルバー人材センター

委 託 料：492,745 円

イ 照明灯 LED 化工事

照明灯の長寿命化のため、LED 化工事を行った。

工 事 費：666,600 円

3 有害鳥獣（農作物被害）対策関係

イノシシ、アライグマ等の野生鳥獣による農作物被害の軽減を目指し、関係機関、猟友会、地区の協力者と連携し対策を実施した。

(1) 個体群管理（捕獲対策）

ア 有害鳥獣駆除（捕獲）業務

農作物に被害を与える有害鳥獣の個体数を減少させるため、（一社）兵庫県猟友会三木支部及び吉川支部に駆除活動を委託し、被害の防止に努めた。また、イノシシ、シカ、アライグマ、ヌートリアの捕獲頭数に応じた補助金を交付した。

捕獲実績：イノシシ 545 頭、シカ 3 頭、アライグマ 1,357 頭 ヌートリア 98 頭

委 託 料：1,600,000 円

手 数 料：407,600 円（ハンター保険加入費用）

補 助 金：4,280,000 円（対象：イノシシ、シカ）

5,406,000 円（対象：アライグマ、ヌートリア）

イ 狩猟免許等取得支援補助事業

有害鳥獣駆除活動に携わる者を確保するため、狩猟免許の取得・更新等に係る経費に対して補助金を交付した。

件 数：31 人

補 助 金：784,850 円

(2) 侵入防止対策

ア 農地侵入防止柵設置の支援

農作物に被害を与える有害鳥獣の進入を防止するため、侵入防止柵（電気柵、ワイヤーメッシュ柵、金網柵等）を設置した集落に対して補助を行った。

【電気柵、ワイヤーメッシュ柵】

件 数：38 集落（27.3km）

補 助 金：5,186,000 円

【金網柵】

件 数：1 集落（1.3km）

補 助 金：3,025,000 円

4 畜産関係

兵庫県姫路家畜保健衛生所と協力して、家畜伝染病予防法の規定による検査等を実施したほか、地力増進事業により耕地に堆きゅう肥を散布して耕畜連携を推進している。

(1) 畜産関係指導事業

市街化が進む中での畜産業は、家畜排せつ物処理等の諸問題が多い。

また、環境汚染防止のための規制、供給過剰基調、市場開放、飼料価格の高騰等もあって経営環境は厳しさを増しており、乳用牛、肉用牛について、飼養戸数は減少傾向にある。

主要家畜飼養状況

区 分	乳用牛	肉用牛	採卵鶏
飼養戸数(戸)	6	3	12
飼養頭羽数(頭・羽)	311	168	1,311,622

ア 酪農家と耕種農家との相互連携により、家畜排せつ物の土壌還元を円滑に進め、経営環境の保全に努めるよう指導した。

(2) 家畜防疫対策事業

家畜伝染病予防法の規定により、兵庫県姫路家畜保健衛生所と協力し、検査等を実施した。

飼養衛生管理基準の遵守状況確認のための立入検査 1回

乳用牛ヨーネ病検査 1回